

ITコーディネータ試験想定問題集

ITコーディネータガイドラインV1.1解説編

- I. ITコーディネータ試験想定問題
- II. 「ITコーディネータ試験想定問題」解答記入シート
- III. 「ITコーディネータ試験想定問題」解説と解説
- IV. 「ITコーディネータ試験想定問題カテゴリ」表

I. ITコーディネータ試験想定問題

1. 「全体共通」問題

問題1. ITコーディネータの役割として最も適切な説明は次のどれか

〈解答群〉

- ア. ITコーディネータはコンサルタントであるから上流工程経営戦略・IT戦略策定フェーズを中心に成果物を作成し、IT資源調達フェーズ以降の作業はITベンダーに作業を任せ続けることになる
- イ. ITコーディネータは情報化に関するアドバイザーであるから、ITCプロセスの5つのフェーズをCSO(Chief Strategic Officer)に対しすべてアドバイス出来る全般的な能力を有することが求められる
- ウ. ITコーディネータはIT化に対するコーチであるから、ITCプロセスの5つのフェーズに対するプロジェクトのステークホルダーを育成し、指導することが求められる
- エ. ITコーディネータは情報化のプロジェクトを推進するために高度な能力を有するプロジェクトリーダーであるから、プロジェクトのPDCAを効果的に実践する能力が求められることになる

問題2. ITCプロセスの実践における記述として不適切な表現はどれか。

〈解答群〉

- ア. 経営戦略の策定以降のフェーズはIT化実行プロジェクトにIT化対象部門が具体的に参画することが必要である
- イ. ITCプロセスの範囲は経営戦略策定とその後の経営戦略実行プロセス、IT化実行プロジェクトとIT環境の定常業務活用も含む
- ウ. IT領域戦略課題を解決する業務プロセス改革課題の明確化・実行・評価はIT化対象部門の主要ミッションである
- エ. 経営戦略を策定し、業務プロセス改革要件の明確化後はIT化実行プロジェクトとなるため、システムが完成し総合テスト前まではIT部門主導で進める

問題3. 経営戦略策定からIT環境を策定し、ITサービス活用に至る各フェーズを成功裡に進めるためには各フェーズにおける組織の成熟度が関係する。IT戦略策定フェーズで活用される成熟度測定手法として、最も適切なものはどれか。

〈解答群〉

- ア. CMMI(Capability Maturity Model Integration)
- イ. COBIT(Control Objectives for Information and related Technology)
- ウ. 日本経営品質賞
- エ. PMBOK(Project Management Body Of Knowledge)

問題4. ITCプロセスでの5つのフェーズの中の4つのフェーズとその成果物が対応付けられているが、この中で不適切な組み合わせはどれか。

〈解答群〉

- ア. IT導入フェーズ成果物: IT導入計画書、IT導入プロジェクト体制、RFP・RFI
- イ. 経営戦略フェーズ成果物: 新ビジネスモデル、IT領域戦略課題、各組織戦略実行計画書
- ウ. ITサービス活用フェーズ成果物: IT戦略達成度評価報告書、業務プロセス改革提案書
- エ. IT戦略策定フェーズ成果物: 業務プロセス改革方針、IT戦略実行計画書、IT戦略企画書

問題5. ITCプロセスの基本原則の中で共通機能のプロセス&プロジェクトマネジメントの基本原則は以下のどれか。

〈解答群〉

- ア. 効果的コミュニケーションスキルの原則、コミュニケーション・スタイルの原則、コミュニケーション・モデルの原則、集団意思決定とリーダーシップの原則、リーダーシップスタイルの原則
- イ. IT化実行プロジェクト完遂の原則、ITサービス活用によるIT戦略目標達成の原則、継続的なIT化改善・改革の原則
- ウ. 合目的性の原則、効果的な方法適用の原則、ステークホルダー納得性の原則、変化への適応性の原則、真実性の原則、公正・中立の原則
- エ. 全体整合の原則、実施条件/バランスの原則、実行可能な組織の原則、可視化と統制の原則

問題6. ITCプロセスの基本原則の中で「IT導入フェーズ」の基本原則は以下のどれか。

〈解答群〉

- ア. 経営戦略と整合性確保の原則、人間系・IT系調和の原則、業務プロセス改革並行実施の原則、IT化の成熟度の原則、経営者責務の原則、ステークホルダー責任権限明確化の原則、経営環境変化・技術動向への対応の原則、セキュリティ&リスク管理の原則、投資対効果の原則
- イ. 顧客価値創造の原則、経営理念と整合性の原則、CSRと継続企業の原則、コアコンピタンスと一対一コンピタンスの原則、経営の成熟度の原則、知の共有と成長の原則、最適資源配分の原則、戦略と事業に基づく経営の原則、継続的改善・改革の原則、収益性の原則
- ウ. 最適IT資源調達の原則、中立性確保の原則、評価基準による選定の原則
- エ. ステークホルダーによる共創の原則、契約履行の原則

問題7. 情報システムの開発も終盤を迎え、ユーザーによる確認テストとして総合システムテストを実施したが、運用ガイドのレベルがエンドユーザーのIT成熟度レベルに比して高く、効率的なシステム運用に対応できないことが分かった。
この時点での成熟度レベル目標はITCプロセスのどのフェーズで検討されるべきものであるか、下記より選択せよ。

〈解答群〉

- ア. 経営戦略フェーズ
- イ. IT戦略策定フェーズ
- ウ. IT資源調達フェーズ
- エ. IT導入フェーズ

10 Copyright ISM-Research co.ltd

問題8. 本社は業務プロセスの迅速化と経営活動の効率化のためにIT化プロジェクトを発足し、IT戦略企画書をITコーディネータのもとに作成し、ITベンダーから調達する案件も確定した。ここまでプロジェクトオーナーとして進めてきたGSOはCIOにそのオーナーの権限を譲りプロジェクトオーナーを交代した。今後のフェーズに、ITCとして以下の関わり方の中で適切と思われるものはどれか。

〈解答群〉

- ア. IT資源の調達まで完了したのであるから、開発以降のフェーズはITベンダーのプロジェクトリーダーによる指導に委ねる
- イ. プロジェクトの一貫性のために、継続してプロジェクトリーダーをプロジェクト完了まで全うする
- ウ. プロジェクトオーナーは交代するが、今までどおりプロジェクトオーナーのアドバイザーをプロジェクト完了まで勤める
- エ. 今後の作業はシステムの実施の構築・運用作業になるため、プロジェクトオーナーでなく、プロジェクトリーダーのアドバイザーとしてプロジェクトの完了まで続ける

11 Copyright ISM-Research co.ltd

問題9. ITCのサービス分野の観点でその活動および対応として、より適切なものは以下のどれか。

〈解答群〉

- ア. ITCは経営戦略からIT導入、活用まで一貫して経営とITの橋渡しをする専門家である
- イ. ITCはITと経営の架け橋の役割を担っているため、ビジネスモデルの変革に合わせたIT戦略の企画支援がその活動分野である
- ウ. ITCはIT導入に関する専任のアドバイザーであり、情報化の企画を中心に支援すると同時に情報化投資の一連のプロセスを管理する活動を範囲とする
- エ. ITCはプロフェッショナルなコーディネート活動に主眼を置くので、IT専門性の高い業務のアドバイザー業務がその活動分野である

12 Copyright ISM-Research co.ltd

問題10. ITコーディネータ協会が提供するITCプロセスがある。このプロセスは「いったい何のためのプロセスなのか」について議論になった。
この意見の中でより適切なものは以下のどれか。

〈解答群〉

- ア. ITCプロセスは経営戦略を策定し、それを実践していくためのプロセスである
- イ. ITCプロセスは情報システム化を行うプロジェクトに全てに適用できる情報システムの構築プロセスである
- ウ. ITCプロセスは経営管理を効率的に進めるための経営管理策の策定のプロセスである
- エ. ITCプロセスは経営戦略の達成に向けて情報システムを構築し、運用するためのプロセスである

13 Copyright ISM-Research co.ltd